

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務所

東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル603号
電話 03-6256-8082

第31回「在京花巻人のつどい」

ご参加への御礼

在京花巻人会副会長 高橋 千代吉



藤良介花巻商工会副会
頭、ご来賓お三方からご
挨拶を頂きました。

恒例の在京花巻人のつどいを、去る7月17日(日)11時より、御茶ノ水の「東京ガーデンパレス」高千穂の間に於いて開催、遠路各方面より多くの皆様のご出席を賜りました。

毎年すっかり馴染みの司会伊藤佳子さん文化放送アナウンサー)の開会宣言に続き瀬川紘一会長の歓迎の挨拶があり、円滑な進行で「総会の部」も手際よく終え、続いて「交流会」では、亀澤健花巻副市長、小原雅道花巻市議会議長、佐

ご挨拶で亀澤健副市長は、市の現況として、人口減少に伴う過疎化対策など苦勞の多い中でふる里納税の活発なこと、46年振りで開催の若手団体では全国の皆様に震災復興後の元気な岩手を、そして花巻の恵まれた観光資源などをおもてなしの心でPRする絶好の機会であり、是非在京会会員皆様の一層のご支援をお願いしたいと強い熱意が伺われました。

続いて司会者から以下のご来賓の皆様のご紹介が行われました。
八重樫和彦総合政策部長、佐藤多恵子地域づくり課長、佐々木力弥商工

観光部長、富澤秀和観光課長、久保田留美子議会議務局長、JA花巻高橋専太郎代表理事組合長、観光協会平塚正隆専務理事、照井善耕教育委員長、若手県東京事務所山智禎所長、若手県産業人会小原之夫代表、エーデルワイン作山明生専務取締役、若手日報社石杜有慎東京支社長、上町家守舎小友康広代表取締役、又、在京花巻ふるさと会(大迫人会、石鳥谷町人会、東和町友会)近隣ふるさと会(北上、紫波町)の各会長及び多くの役員の皆様です。来賓及び一般会員の総勢136名のご参加で盛大に交流の輪を広げることが出来ましたこと心より御礼申し上げます。

平成28年度(第31回) つどい収支決算表 平成28年7月17日 於 東京ガーデンパレス

(単位:円)

収入	支出	差引残高	摘要
846,000			会員参加96名 9,000円×96人=864,000 (内夫婦参加6組、1組3,000円戻し) △18,000
324,000			来賓参加36名 9,000円×36人=324,000
250,000			一般会計から補助
60,000			寄付金
	1,104,943		ホテルの支払
	111,650		お土産(羽山饅頭) 770円×145=111,650
	8,948		ワイン6本(ウエルカムドリンク用)
	73,440		つどい案内、ハガキ印刷 各1,000枚
	50,000		イベント(金津流横浜獅子躍)
	30,000		司会者
	20,000		歌関係者お礼
	30,000		吊り下げ看板制作代
	14,606		ハガキ回収代(218通)
	9,404		荷物搬送料
	2,672		振込手数料、熨斗袋、他
1,480,000	1,455,663	24,337	

差引残高 24,337円は一般会計に戻しました。

曲の大会唱で無事閉会となりました。ご参加された皆様には、行届かない失礼が多々ありましたことお詫び申し上げます。尚、今後ふる里花巻と在京花巻人会の活発な関係づくりに努めたいと思っておりますので皆様の一層のご支援をお願いし、御礼の御挨拶と致します。

平成29年度「第32回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時:平成29年7月8日(土) 11時~14時
会場:東京ガーデンパレス
住所:東京都文京区湯島1-7-5
電話:03-3813-6211
アクセス:JR御茶ノ水駅 聖橋口改札

『在京花巻人のつどい』に参加して



及川 尚人

(南城中46年卒)

平成28年7月17日(日)

御茶ノ水駅近くの東京ガーデンパレスに於いて第31回「在京花巻人の集い」が開催されました。伊藤佳子さん(文化放送アナウンサー)の司会で《総会の部》が始まりました。冒頭、瀬川会長からのご挨拶があり、議事が恙なく進行、総会終了。その後テーブル毎の記念写真撮影。《交流会の部》に移り、来賓の方々のご挨拶。そして当日出席の来賓の皆さまの紹介に続き、高橋花巻農業協同組合代表理事組合長の乾杯のご発声で交流会がスタートしました。お酒がすすむにつれて各テーブル(15テーブル130名余の参加者)から懐かしい花巻弁が聞えてきました。(故郷のなまり懐かし……) 歓談が続き、アトラク

ションは「金津流横浜獅子躍」の皆さんによる迫

力あるパフォーマンス。続いて当集いの恒例の参

加者全員で合唱。及川慎

先生の歌唱指導のもと賢

治にゆかりのある歌を数

曲歌いました。私事です

が埼玉県北本市(地元)の

混声合唱団で合唱をや

っておりますので、とても

楽しいひと時でした。「在

京花巻人の集い」は、年

齢は異なりますが、花巻

市という共通の「ふるさと

」を持つ仲間の素敵な

親睦会だと思いました。当日参加の皆さんは澆刺

として、私も元気をいた

家守舎の小友代表取締役からのプロジェクトへの支援のお願いのお話がありました。

最後に高橋副会長から

の閉会のご挨拶。来年の

再会を約束して最高潮の

なかお開きとなりました。

花巻市商工観光部 観光課長 富澤 秀和

第31回在京花巻人のつどいにご案内をいただき

誠にありがとうございました。当日、会場へと向

かう新幹線の中で、10年前の記憶がよみがえりま

した。新市となった平成18年4月から3年間、東

京事務所勤務の際、瀬川会長をはじめ、在京花巻

人会役員、会員の皆様方には大変お世話になりました。

在京花巻人のつどいに出席された全員の皆様とお話することはできま

せんでしたが、大迫、石鳥谷、東和の各在京会の

役員の皆様も出席されており、懇親を深めること

ができて、本当に有意義な時間を過ごさせていただけました。懇談させていた

だいた方々は皆「花巻のために」と、生まれ育ったふるさとへのエールと熱い想いを語り、私なりにその想いをしっかりと受け止めさせていただきました。改めてこのような貴重な機会を与えていただいた在京花巻人会の皆様にご挨拶を申し上げます。

去る7月17日(日)第31回在京花巻人のつどいが東京ガーデンパレスに於て盛大に行われました。私は都合がつかず被災地ツアーを断念しておりましたのでこの会には是非と思っており、参加出来、良かったと思っております。

その後の二次会はお茶ノ水の駅近くのある居酒屋がセッティングされており、懐かしい面々の別れを惜しむ人達が少年に戻ったかのようになり、ビールやお銚子片手にあつちの席こつちの席とボルテージは揚がりつつ、同郷のよしみとはこんなに強いものかとジンと来るものがありました。私は途中で失礼しましたが、残った方達は二次会もあつたのでしょうか?! 来年も元気に参加したい思いを胸に帰途につきました。



加藤 有子

(湯口中33年卒)

平成28年 在京花巻人のつどい



会員の活動報告コーナー

ふるさと復興支援 バスツアーに参加して



岡田 修

(花中34年卒)

今回は6回目のふるさと復興支援ツアーでしたが、私は3回目の参加です。

5月20日(金) 東京八重洲出発の2泊3日の旅でしたが、3日間とも天気に恵まれ、楽しいバスツアーになりました。

最初に泊まった所は金矢温泉でした。宴会の席上には花巻市長が参加され、宮沢賢治の作品「銀河鉄道の夜」のSL列車などを描いたイラストを市の予算で新しく壁画を描きなおしたので是非見て欲しいとのこと。そこで宴会終了後に30名程の希望者が旅館のマイクロバスに乗り「銀河鉄道の夜」の壁画を見に行きました。参加者の皆さんは暗闇に映る絵に感激して

いました。

2日目は、まず円万寺に歩いて登り、高台の境内から見る田園風景は、なぜか懐かしく思われ、故里はまだまだ良い所があるのだなーと感じました。43名を乗せたバスは花巻駅に着き、「SL銀河」の列車に乗り、民話の里、遠野駅まで途中駅に停車しながら約1時間半、昔懐かしい石炭の煙の匂いを味わいつつ、岩手の景色を楽しみました。この「SL銀河」列車は、なかなか乗車予約が取れないそうです。

次に遠野駅からバスで40分程行った所の東和町の丹内神社に向かい、そこで鹿踊りの舞があり、小さい頃はこの太鼓の音で胸の高鳴りを覚えたものです。改めて故里は素晴らしいものだと思えました。

3日目は海岸線の陸前高田市の被災状況を地元案内人から説明を聞きました。「津波は15メートルを超えて押し寄せてきて、1800名の死者と

200名の行方不明者がでたが、小学生・中学生は近くの山へ駆け上り全員無事だった」とのことです。話題の奇跡の一本松を車窓から見ましたが、なぜか寂しさだけを感じました。現在はインフラ整備だけが前に進んでいますが、街中などの市民生活の復興は、まったく目に映りませんでした。また来年も参加して被災を受けた市民生活の復興状況を見たいものです。

今回の手作りのツアー、蟹澤東和町友会会長はじめ幹事の皆様お疲れ様でした。大変楽しい旅行を有難うございました。

第6回ふるさと復興 ツアーに参加して

副会長 高橋 良光

今年の幹事は東和町友会、5月20日(金)の朝、参加者43名で誰も時間に遅れることなく8時15分に出発。バスは北へ向い、田植が終った田んぼ、山々には残雪と美しい風景が続きます。昼食は、飾り巻き寿司、蟹、あやめを型どったもので食べるのもつたいないほどでした。

岩手に入り最初の見学は祝鼻溪。絶景の新緑の渓谷を約1時間で往復、特に良かったのは船頭の唄「げいび追分」、岩に共鳴した唄声はなんとも言えない感動でした。

1日目の宴会では上田市長をはじめ市関係者の挨拶、又、東和町の神楽も披露され暖かい歓迎を受けました。

2日目は最大の目玉である花巻から遠野までのSL列車。車内はレトロな雰囲気と賢治の童話の中にいる感じ。沿線にはSL列車を撮る多くの写真家、又、野良仕事の人々も手を振ってくれました。昼食は遠野で名物のジンギスカン、午後は田瀬ダム見学、丹内神社を回って佐々長醸造工場を見学。びっくりしたのは味噌樽の大きさと、高さ1.9メートル、胸回り6メートル、木材の厚さ5センチ。仕込んだ大豆には、味噌になるまでずっとベーターベンの交響曲第6番「田園」を聴かせているとのこと、味噌は一段と美味しくなるそうです。2日目の宿は遠野にある「たかむろ水光園」。



平成28年5月20日

3日目は住田町の神秘的な鍾乳洞、滝観洞を見学。そこから奇跡の一本松のある陸前高田へ、2年前と幾らも変わってなく復興事業はあまり進んでいないと感じました。そこから気仙沼へ行き昼食、帰路のバスは蟹沢会長の綾小路きみまる調で盛り上がり、和やかなうちに無事東京到着。幹事の皆さんのおかげで楽しいツアーでした。

第42回「岩手県人の集い」開催

平成28年度岩手県人連合会総会を兼ねた「岩

手県人の集い」が6月5日(日)、ホテルラングウッド(日暮里駅前)で開催されました。会場には各ふるさと会など76団体の会員と来賓の達増岩手県知事をはじめ、多くの市町長が顔をそろえる約400名の盛大なものでした。会の進行は、「黙祷」に始まり「会務報告」、「ふる里を愛する心」の総会決議の後、達増知事のあいさつ。今年、岩手県の最重要施策として「大震災からの復興」、「産業の振興」、「岩手国体の成功」をあげておられました。

懇親会のアトラクションは岩谷堂の火防祭が1ツの「江刺甚句踊り」。20人ほどの踊り手が、優雅な手踊りを披露、集いの雰囲気を一層盛り上げていました。

花巻市から出席された地域づくり課長の佐藤多恵子さんと在京花巻ふるさと会の瀨川会長ほか17名のメンバーもふるさと訛りを交えながら懇親をはかることが出来ました。(編集部 MT)

《はなまき あれこれ》

宮澤賢治生誕120年のイベント開催

「37年という短い生涯を全速力で駆け抜け、今もなお多くの人を魅了する詩人・童話作家の宮澤賢治が、花巻に生を受けて今年で120年を迎える。」(『花日和』より)

花巻市では今年の4月29日から10月23日まで、「宮澤賢治生誕120年記念事業」が開催されています。以下に、イベントの幾つかを紹介します。

- 1、宮澤賢治童話村では、期間中の指定日にライトアップ、屋外エリアに施された新素材の偏光フィルターとステンドグラスを使った光の演出が賢治作品独特の情景や色彩を作り出しました。
- 2、宮澤賢治記念館では、「雨二モマケズ」が書かれた賢治自筆の手帳と高村光太郎が揮毫した詩碑の原文を展示、どちらも初公開です。
- 3、「イーハトーブフェスティバル」宮澤賢治童話村の野外ステージで音楽、映像、文学などの芸術と、賢治の作品世界とのつながりをゲストを迎え、トークやライブ、映像等を通じて紹介されました。

4、例年の賢治祭の特別プログラムとして、9月16日(金)チェロ奏者の藤原真理をゲストに迎え「音楽と演劇の夕べ」を開催。

5、「イーハトーブフォーラム in HANAMAKI」8月20日～21日

＜光と音のページェント 花火ファンタジー 北上川河川敷＞

＜第19回イーハトーブの里 ツーデーマーチ＞

イーハトーブの里花巻をウォーキングで巡る全8コース(5キロ～40キロ)

この他にも関連のイベントは沢山あり、ふる里花巻は大いに盛り上がったようです。

なお、在京花巻ふるさと会では、宮澤賢治生誕120年のロゴマークの使用承認を花巻市より頂き、大迫、石鳥谷、東和、花巻の各在京ふるさと会ではそれぞれの配布物に記載しイベントのPRに努めています。(編集部)

花巻家守舎とマルカン存続プロジェクトについて

(株)花巻家守舎 代表取締役 小友 康広



皆さん、こんにちは。

私は、昭和58年2月に花巻町にある(株)小友木材店の4代目として生まれ、花巻北高校を経て、明治大学に入学、卒業後はITベンチャー企業に就職し、東証一部上場などを経験し、平成27年父の他界をきっかけに家業を継ぎました。

(株)花巻家守舎は空き家を活用したエリアプロデュース会社として平成27年4月に設立しました。具体的には「この空き家にどんな店が入ったらまちが良くなるか？」を構想し、空き家所有者から安く借り受け、入居者を連れて来て、我々の費用を出し改装し、店の集客や経費削減を手伝い、入居者から家賃を頂く」という商売です。

このような家守活動は全国約50団体が実践しており、「3年間で1商店街での新規雇用が350人増加」などの例も出てきております。なお、家守活動は補助金を使用せず経済原理で行っており「空き家問題の解決」「地元の産業の発掘」を同時に解決出来る方法なのです。

今年3月にマルカン百貨店が閉店するという報道発表があった際「大好きな大食堂を無くしたくない」「大切なものは自分たちで守らなくては」そして「家守活動の方法論で大食堂を存続できるのでは？」と思い、運営存続の検討を開始しました。

3月中旬～5月末の検討では「初期投資6億円、10年間の利益4億円」という算出結果でしたが、7月末段階では再稼働させる階を限定することで「初期費用4億円、10年間の利益3億円」というところまで来ております。大食堂存続のために更なる経費削減・売上向上案を模索しておりますが、大食堂ファンの皆様から寄付を頂くことで存続の可能性を高める活動も行っております。この寄付は「大食堂が存続する」という場合のみお振り込み頂くものです。

寄付についてお問い合わせがある方は、

info@hanamakiyamori.com もしくは、

090-7664-1749 (小友携帯電話) までご連絡下さい。

※その後、この事業計画は確定し、来年2月の再開を目指すとの事です。

リオ五輪に花巻市出身の選手出場!!

副会長 高橋 良光

先に、メルマガ・熊タイムズ(在京花巻ふるさと会発信の情報誌)でも紹介しましたが花巻市宮野目出身の高橋英輝(エイキ)選手が、リオ五輪の6日目(12日金曜)に行われた陸上競技20キロ競歩に出場しました。

高橋選手は23才で宮野目中学、花巻北高、岩手大学と進み、現在は富士通勤務で日本代表に選ばれたもの。本人は今季世界ランキング1位の記録を持っていて表彰台を期待されておりました。

競歩という競技は早く歩けば良いということではなく、その中に走ってはダメ、脚を曲げて歩いてはダメ等難しい規則があり、3枚のレッドカード(違反回数)をもらうと失格となり、また歩く速さは時速13km

(普通の人3倍)で歩く競技。暑い時間帯にスタート、1周1kmを20周するコースです。

沿道では応援する両親の姿がテレビに映されておりました。又、日の丸の旗を持って応援している人も多かったです。ゼッケン181番の高橋選手は表彰台を意識するあまり慎重になりすぎて本来のスピードで歩くことが出来なかった様で、又、失格を恐れてペースが上がらず、残念ながら入賞は出来ませんでした。4年後の東京五輪での表彰台を目指して頑張ってくれることと思います。ゴールは日本時間13日(土)午前4時頃で、眠いと思いながら応援した早朝でした。



今回から3回にわたり、故北山愛郎氏の長女の北山郁子氏の著作「ドウリズムの政治（北山愛郎的デモクラシー）」の中から「カスリン・アイオン台風の被害―瀬川の切り替えへ―」を抜粋して掲載します。なお、文章を一部省略させて頂いております。

工場の誘致、花中のモデルスクールや公民館の建設など、皆さんの記憶にも残っていると思います。特に印象深かったのは、台風による水害の記述です。2年続いた水害の被害で水に浸かって茶色に変色したご飯を、その後何か月も食べたことを思い出しました。

この本には、主として北山氏の昭和22年から5年半弱に及ぶ花巻町長としての活動が書かれています。釜石線開通、雪印

なお、この本は2002年2月北山愛郎氏が96歳で逝去された後、8年後の2010年8月に出版されました。（瀬川会長）

カスリン・アイオン台風の被害 ：瀬川の切り替えへ（第一回）



会員 北山 郁子

（花中33年卒）

町長就任から4カ月後の1947年9月15日、花巻の町はカスリン台風による水害に見舞われました。

日本の台風の災害史に

9月15日岩手県内は台

風がもたらした多量の雨が北上川を急激に増水させ、支流河川の逆流が起これ堤防は決壊して、北上川下流の一帯地帯は大洪水となりました。岩手のおおむね真中に位置する花巻の町も、町始まって以来の未曾有の洪水に見舞われたのです。

花巻地帯のカスリン台風による水害はなぜ大きな被害を引き起こしたのか、そのとき、町長はじ

め町民はどう対処したのか、元花巻区長会長の堀合徳身氏が2001年にまとめた『カスリン・アイオン台風の被害対策を考察する』のレポートを土台に検証していきます。結論から述べると、奥羽山系を水源とし北西から花巻方面に流れてくる小さな河川である瀬川が、北上川の増水によって氾濫したことが被害を大きくした第一の原因だと、レポートでは分析しています。（略）

橋の南地点で北上川に合流するという町中を大迂回した河川でした。約4800坪に及ぶ住宅地を蛇行している瀬川の堤防は不備であり、しかも、四日町や一日市地域は河床が高く、梅雨期の増水時などには、たびたび耕地や民家に被害をもたらすのが常習の河川でした。

度重なる水害を防止するためには、この瀬川の流路を、釜石線の瀬川に架かっている鉄橋の地点から下流350坪付近で河川を切り替えて、似内の地内を横断させる河川工事をしなければならぬという住民の問題意識は古くからありました。しかし、花巻町の苦しい財政事情が、河川のショートカット工事を実施する具体策を見送らせてきたのでした。（略）

9月14日午後2時ごろから花巻の町は豪雨となりました。16日午後2時までの花巻の降水量は293.3mmを記録し、北上川の水位は7.87に増水、北上川に流入するすべての支流河川が氾濫しました。

一日市・四日町方面の街並

9月15日雨が降り続い

ていたなか、町長である父はいつものように河川の増水状況を見て回っていました。いつまでも降りやまない雨脚の烈しさに心配が募り、瀬川が流下している一日市裏の道沿いや鍵町の年配の人たちから、過去に起こった瀬川の水害の状況について聞き込みを続けました。年配者の誰もが明治43年大水害があったけれど浸水は大したことにはなかったと、経験的な見地での話をしたということ

です。父も、この経験談について安心したのでしょ、住民を避難させるなどの危機意識を持たなかったのは甘い判断でした。

当時、私の家は、つまり町長宅はこの危険地帯にあたる愛宕町にありました。この地盤の低い場所にあった自宅で、父は日が暮れて夜を迎え、ただ心配をしていたのでした。ところが、そこへ突然水があふれるように流れてきて小さい玄関の土間を満たしたかと思ったら、ドドド―と、家のなかに流れ込んできたのです。幼かった私の記憶は非常に断片的なので

すが、玄関でチヨロチヨロ水の音がしたとたん、汚水がいきなり床を走ったという感じでした。二軒長屋のような平屋でしたので、隣の家族や近所の大家さんの家の人たちなどみんな大慌てで命からがら避難するのが精いっぱいでした。

我が家は、まだ妹も生まれていなくて子どもは私だけだったので、私は父の肩車に乗って、そこから一面が湖のように変貌した汚水のなかを掻き分けて逃げました。父の胸のあたりまで水高があり、幼いせいもあって広い湖を漕ぐように進んでいったような印象なので

すが、緊迫した事態とはいえ怖さは全くなくて、どちらかという父親が身近にたくましく思えた数少ないシーンとして、そのときの映像は私の記憶のデータベースに入っています。大家の伊藤さんの家の裏側の一段高い場所にあった蔵の二階に避難したのです。

私の家から10分ほど先にある一日市の交差点から花巻駅につながる旧国道を右折するとなだらかな坂道になっていきます。瑞興寺の寺門より少し手前までの浸水でしたので、父はそこから一人で走って警察署長宅に駆け込みました。「浸水していない町はシーンと静かで、すぐそこが水害になって助けを求めているなんて嘘のようだった。大変だと駆け込んだときには署長がどてらを着て出てくる始末で、町の北部や東部が水害にあっているなんて信じられないようだった」と、父はその緊急事態のときのことを、後年よくみんなに話していました。

いま考えると、なんとも牧歌的ともいえる話ですが、町長宅には電話は

ありましたが、当時電話を引いている家はほとんどに数少なかったように、電話は浸水によって使えなくなり、ましてや車を持っていない家はほとんどない時代でしたので、連絡方法は走ることにしかなかったのです。

警察署長は末広町の警察署の緊急サイレンを鳴らし、町全体に緊急事態を発令したのではないのでしょうか。当時は町中に響くサイレンが正午と夕刻、または火災発生など緊急事態のときに鳴らされていきました。その2年ほど前までは空襲警報であったサイレンは、町民の目を覚まさせるに十分だったと思います。このときから救助活動が始まったのです。

とりあえずは、被害状況を把握するために走りまわったのだらうと思います。浸水状況は、私の家の場合には、襖の一番上のあたりまででした。二階建ての家の人には二階部分に避難していた人が多かったのですが、平屋で自宅の屋根に避難し、水に囲まれて孤立してしまっただけの人もいました。「助けて！」と声をあげる人

がいても、舟の用意ができずどつすることもできなかつたのでした。「応急の筏をつくるのがなかなか捗らなくてイライラした」と、父が話していたのを覚えています。

水害に慣れていたがため油断があり、予想していなかった水の勢いは、家屋はもろろのこのと家財を流し、多くの財産が失われ、田畑を荒らしてしまつたのです。一瞬にしての広い湖の出現は呆然とする光景であり、その水面にぶかぶかと木材や家財が浮かんでいる異様な状況に対処する術は、残念ながら備えていなかったということでしょう。

次第に夜が明けてきて、全体の被害状況を掴んで対策を講じ炊き出しが始まった頃、父は瑞興寺の向かい側にあつた下駄屋さんの店先の板間に腰をおろし、お茶をいだいてホッと安堵し、疲れ切つてそのまま板間に仰向けになって寝入ってしまったといふことでした。台風が去つて水が退いた後、被災家庭は泥や土砂にまみれた家屋を洗い流し、家財を拾い集めて

は洗って乾してしまつた。河川や道路、農地、生活ライフラインの復旧作業は大変な作業でした。

堀合氏のレポートによると、水害に見舞われた4日後の19日、浸水家屋の消毒を実施しています。当時は衛生状況が悪く、チフスや赤痢患者がポツポツいましたので、かなり心配していたことが記録されています。家

屋の乾燥を待つてさらに消毒を実施することを予定していました。

家のなかで完全に乾燥するまでには、相当時間がかつたと想像されますが、私の記憶では、自宅の襖の上部に付いた波のようなうねり模様は、ずっと消えずに襖模様として定着してしまつて、水害の話になると「ここまで水が来たんですよ」と、そのシミは水

位を表すものとして存在感を増していったのでした。流されることを免れたとしても、剥げたり、削げたり、べったりくっついて離れないモノだらけとなり、モノがない時代であつたからでしょうが、流失を免れた家財はそのまま使われることとなり、私は少なくとも数年間は不完全なものに囲まれて暮らしていたと記憶しています。(続く)

旧瀬川流水ルート・瀬川切り替え現ルート図



親睦
交流

第19回 歩こう会

将軍家と江戸っ子に愛された神社を巡る

理事 松田 文男

6月4日(土)午前10時にJR四ツ谷駅麹町口改札に参加者42名が集合し、初夏の日差しを浴びながらスタート。最初に訪れた迎賓館赤坂離宮は、戦後外国の賓客を迎えることが多くなり、旧赤坂離宮を改修したもの。この日は前庭から素晴らしい迎賓館を見学しました。

次は豊川稲荷東京別院。大岡越前守の位牌が安置されており、院内は意外とコンパクト。又、土地柄花柳界など芸道を生業とする人々の信仰が厚く、現在では芸能人やスポーツ関係の方からの信仰を集めています。続いて、青山通りの高橋是清記念公園に。高橋是清は高名な財政家・政治家ですが、あの2.26事件で殺害された屋敷跡を記念公園としています。この公園を後にして、赤坂の洒落た街並みを眺めながら、一ツ木通りに着いたところで丁度お昼時となり、思い思いの食事処で昼食となりました。

昼食後は日枝神社に向かいましたが、今は外堀通りの上までエスカレータが完備されており我々年寄りには大助かり。この日枝神社の御神猿は、魔がさるとか、犬と共に分娩が軽い動物ということで、安産信仰がなされたとのこと。

次に、今回の最難所の坂を登り切り議事堂の横を周って尾崎行雄の銅像がある憲政記念会館に到着。

この記念館は1970年に国会開設80年記念として建てられたもので、彦根藩主井伊直弼の屋敷跡で陸軍参謀本部のあった場所。しばらく休憩してから、日本水準原点のある施設を見て修学旅行以来の国会議事堂正門前を通り、霞が関の官庁街を下り霞が関ビルの前庭に着き、楽しかった散策は解散となりました。解散後は有志で近くの虎の門の居酒屋で心地よい疲れを癒して散会となりました。

この会のコースは都心が中心で交通の便が良く、自分の体力に合わせて何時何処でもリタイア出来るのがメリットです、是非参加されてみては如何でしょうか。次回は、11月26日(土)、品川方面を歩きます。



会費納入のお願いと 納入状況の報告

①会費納入のお願い

会員の皆様には在京花巻人会の運営にご協力をいただき、ありがとうございます。

今年度の会費の振込みがまだお済みでない方は、6月1日付第48号会報送付の際に同封いたしました赤い振込票(振込手数料不要)で郵便局から下記口座へ3,000円お振込み下さいますようお願い致します。

すでにお振込みいただいた会費は「会報の発行」、7月17日に開催した「花巻人のつどい」に使用させていただいています。

記

□座名義 在京花巻人会
□座記号番号 00240-6-111794

②会費納入のお礼と納入状況

28年度の会費納入は8月31日現在253名759,000円です。

皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。
会計担当 高橋良光 板垣雅子

第100回在京大迫人会の集い のお知らせ

在京大迫人会は大正5年(1915年)創立、今年100周年を迎えます。岩手県では一関ふるさと会について2番目に古いふるさと会です。在京大迫人会は記念碑の建立や、会報の「愛郷」の記念号の出版等様々な記念行事を計画しています。

特に100回目となる「在京大迫人会の総会と集い」は、10月30日(日)に以下の要領で開催されます。在京花巻人会の会員の皆様にも是非ご参加頂きたくご案内を致します。

この日は午前11時から12時まで早池峰神楽の岳神楽の演舞があり、12時から総会と集いが開始されます。集いには大沢桃子さんの出演が予定されています。会費は、神楽のみの鑑賞は1000円、総会と集いへの出席は10,000円となっています。

参加の申し込みは、10月17日(月)までに在京花巻人会副会長 高橋良光(携帯090-5448-8198)までご連絡下さい。

開催日時：平成28年10月30日(日)
午前11時～12時 早池峰岳神楽
12時～ 「総会と集い」
開催場所：日本教育会館 喜山倶楽部(9階)
東京都千代田区一ツ橋2-6-2

(編集部)